

## 地域医療支援病院における令和元年度の業務報告について

県内に所在する38カ所の地域医療支援病院から、医療法施行規則第9条の2に基づく業務に関する報告書の提出がありましたので、次のとおり報告します。

## 1 承認要件

## (1) 紹介率及び逆紹介率

全ての地域医療支援病院において満たされていました。

- ア) 紹介率 80%以上 24病院 (63.2%)
- イ) 紹介率 65%以上かつ逆紹介率 40%以上 6病院 (15.8%)
- ウ) 紹介率 50%以上かつ逆紹介率 70%以上 8病院 (21.0%)

## (2) 共同利用の実績

全ての地域医療支援病院において満たされていました。

## ア) 円滑な実施のための体制確保

全ての地域医療支援病院において、共同利用に関する運営規定が定められ、共同利用を行う医療機関の登録制度が設けられるとともに、情報の提供、連絡、調整について担当者が決められており、円滑な実施のための体制確保が図られていました。

## イ) 共同利用の設備、器機等

主にMRI、CT等の画像診断機器、臨床検査機器、内視鏡検査、手術室等となっており、病院の施設の全てを共同利用としている地域医療支援病院は4病院ありました。

## ウ) 共同利用に関する情報提供

当該病院のホームページ、広報誌、研修会等を利用して共同利用に関する情報が提供されていました。

## エ) 共同利用のための専用病床

- ① 10床未満 16病院 (42.1%) (5床 13病院 (34.2%))
- ② 10床以上～50床未満 15病院 (39.5%) (10床 8病院 (21.1%))
- ③ 50床以上 7病院 (18.4%) (343床 田主丸中央病院)

## オ) 共同利用を行った医療機関延べ数

- ① 1,000件未満 8病院 (21.0%)
- ② 1,000件以上～5,000件未満 22病院 (57.9%)
- ③ 5,000件以上～10,000件未満 5病院 (13.2%)
- ④ 10,000件以上 3病院 (7.9%) (13,992件 済生会福岡総合病院)

## カ) 登録医療機関の数

- ① 100未満 12病院 (31.6%)
- ② 100以上～500未満 22病院 (57.9%)
- ③ 500以上 4病院 (10.5%) (758 済生会福岡総合病院)

## (3) 救急医療の提供の実績

救急医療の提供として、以下のア) 又はイ) を満たす必要がありますが、糸島医師会病院を除く37病院 (97.4%) においては満たされていました。

糸島医師会病院については、平成30年度においても要件が満たされていませんでしたが、令和元年度は前年と比べ微増となっています。糸島医師会病院における救急医療の提供の実績及び承認要件を充足するための年次計画を、資料3に添付しています。

## ア) 救急搬送患者数÷救急医療圏人口×1,000≥2

## イ) 当該医療機関における年間の救急搬送患者の受入数≥1,000

救急搬送受入患者数の内訳は次のとおりです。

- ① 1,000人未満 2病院 (5.3%)
- ② 1,000人以上～5,000人未満 26病院 (68.4%)
- ③ 5,000人以上～10,000人未満 9病院 (23.7%)
- ④ 10,000人以上 1病院 (2.6%) (10,609人 聖マリア病院)

#### (4) 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施の状況

全ての地域医療支援病院において、以下のア) からオ) までの要件が満たされていました。

- ア) 必要な図書等を整備し、研修を定期的に行う体制が整備されていること
- イ) 研修プログラムを作成していること
- ウ) 教育責任者及び研修委員会が設置されていること
- エ) 研修のための施設及び設備を有していること
- オ) 年間12回以上の研修

また、研修は、院内及び院外の看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士等の医療従事者に対して実施されており、研修会の主な内容は、地域における疾患等に関するカンファレンスとなっています。研修の回数の内訳は以下のとおりです。

- ① 12回以上～50回未満 26病院 (68.4%)
- ② 50回以上 12病院 (31.6%) (120回 福岡市民病院)

#### (5) 地域医療支援病院が設置する委員会の開催の実績

委員会の開催は、原則、四半期に1回(4回/年)程度開催するよう定められていますが、2病院(福岡東医療センター及び新行橋病院)においては3回となっており、その理由として、新型コロナウイルス感染症患者の対応等で開催できなかった旨の報告がされています。

- ① 3回 2病院 (5.3%)
- ② 4回 36病院 (94.7%)

#### (6) 患者相談の実績

患者からの相談に適切に応じる体制を確保する必要がありますが、全ての地域医療支援病院において確保されていました。相談件数の内訳は以下のとおりです。

- ① 1,000件未満 1病院 (2.6%)
- ② 1,000件以上～10,000件未満 24病院 (63.2%)
- ③ 10,000件以上 13病院 (34.2%) (28,533件製鉄記念八幡病院)

## 2 任意的に求められる取り組み

### (1) 病院の機能に関する第三者評価

38病院中34病院において、以下の第三者評価を取得されていました。4病院(福岡東医療センター、福岡大学筑紫病院、遠賀中間医師会おんが病院、北九州市立八幡病院)については、新型コロナウイルス感染症の影響により、日本医療機能評価機構の認定受審が延期になった旨の報告がされています。

- ① (公財)日本医療機能評価機構による認定 32病院 (84.2%)
- ② ISO9001等の取得 4病院 (10.5%)
- ③ 日本医療機能評価機構の受審予定 4病院 (10.5%)

### (2) 果たしている役割に関する情報発信

全ての地域医療支援病院において、ICTを用いた病診連携が図られており、また、とびうめネットの加入についても全て加入されていました。

- ① ICTを用いた病診連携等の提供  
あり 38病院 (100%)
- ② とびうめネットの参加  
あり 38病院 (100%)

### (3) 地域連携を促進するための取り組み

全ての地域医療支援病院において、地域の医師会と連携のもとに策定されたクリティカルパスを運用されていました。運用されている主なクリティカルパスは次のとおりです。

- ・大腿骨頸部骨折
- ・脳卒中
- ・癌

### (4) その他(地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況)

全ての地域医療支援病院において、地域の看護学生の実習生を受入れられていました。

# 令和元年度地域医療支援病院業務報告(承認要件)

業務に関する報告事項				①紹介率及び逆紹介率					②共同利用の実績				③救急医療の提供の実績		④地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施の状況				⑤地域医療支援病院が設置する委員会の開催の実績	⑥患者相談の実績
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	紹介率及び逆紹介率に係る要件 以下のいずれかを満たす必要あり		紹介患者の数 (人)	初診患者の数 (人)	逆紹介患者数 (人)	共同利用を行った医療機関 延べ数 (件)	共同利用の内容	常時共同利用可能な病床数 (床)	登録医療機関の数	救急搬送受入患者数 (人)	医師、その他の医療従事者 (看護師・薬剤師・技師等)を 対象にしたもの			医師以外の参加職種	研修会の内容	委員会の開催実績(回) (原則、四半期に1回程度)	相談数 (件)
				紹介率 (%)	逆紹介率 (%)									回数 (回)	参加者 (人)	うち院外 (人)				
福岡・糸島 (11病院)	1	糸島医師会病院 (H15. 3. 13)	一般150	96.5	96.7	3,604	3,734	3,613	4,536	MRI室、CT室、内視鏡室、心電図室、地域医療連携室、図書室、研修室等	150	79	ア)0.28 イ)428	12	1,371	253	看護師、看護助手、保健師、薬剤師、リハビリセラピスト、検査技師、放射線技師、栄養士、MSW、消防署員、事務職、市役所職員等	・病診連携カンファレンス ・新・教育セミナーカンファレンス ・医療従事者研修会 他	4	501
	2	独立行政法人国立病院機構九州医療センター (H16. 2. 27)	一般650 精神 50 感染症2	97.7	85.7	14,737	15,076	12,933	4,320	建物全部、CT、MRI、RI及びこれに付随する機会・器具一式	77	682	3,732	64	3,323	2,268	看護師、看護助手、コメディカル、介護士	・福岡県HIV/AIDS出前研修会 ・地域連携バス実績報告会 ・地域医師のための生涯研修セミナー 他	4	5,696
	3	公立学校共済組合九州中央病院 (H18. 4. 1)	一般330	79.6	92.2	12,854	16,147	14,897	2,005	病院建物全部(駐車場含)、CT2台、MRI2台、RI、放射線治療、超音波検査、骨密度測定、ダクトスキャン、内視鏡検査、生理機能検査等	6	403	6,080	84	3,100	2,292	看護師、検査技師、救急救命士、薬剤師、歯科医師、臨床工学技士、臨床心理士、栄養士、リハビリ等	・地域医療の向上にかかる研修会 ・救急研修会 ・検査技師技術向上研修会 他	4	10,054
	4	福岡市立こども病院 (H19. 9. 1)	一般239	94.8	68.7	8,605	9,070	6,238	12,003	化学検査室、細菌検査室、病理検査室、病理解剖室、生理検査室、放射線検査室、(MRI、CT、X線、透視、骨密度測定装置、心血管造影)、内視鏡検査室、手術室、集中治療室、病床239床	239	176	1,397	31	1,362	805	看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、MSW、臨床心理士、助産師、事務職員、歯科医師、相談支援員、作業療法士等	・こども病院カンファレンス ・福岡小児神経研究会 ・こども病院・連携病院周産期症例検討会 他	4	11,338
	5	国家公務員共済組合連合会浜の町病院 (H21. 4. 1)	一般468	90.6	115.2	11,622	12,814	14,769	10,705	開放型病床、CT、MRI、マンモグラフィ、核医学診断装置、放射線治療、腹部超音波検査、心臓超音波検査、上部・下部内視鏡検査装置	20	556	3,025	39	1,678	873	看護師、薬剤師、放射線技師、MSW、がん医療従事者	・医療スタッフのためのがん診療セミナー ・天神FPD研究会 ・地域医療連携の会 他	4	3,136
	6	福岡県済生会福岡総合病院 (H22. 4. 1)	一般380	88.1	124.6	14,293	16,210	20,199	13,992	開放病床、手術室、内視鏡検査(上部、下部)、320列CT撮影、80列CT撮影、MRI撮影、一般撮影、放射線治療装置、マンモグラフィ撮影、腹部超音波検査、心臓超音波検査、トレッドミル検査、心臓カテーテル検査、腹部血管造影、頭部血管造影、PET/CT検査	10	758	4,329	78	2,732	1,586	看護師、薬剤師、ME、救急隊員、放射線技師、検査技師、薬剤師、管理栄養士、MSW、社会福祉士、PT、OT、介護福祉士等	・福岡脳卒中救急カンファレンス ・福岡天神カンファレンス ・救急ワークステーション 他	4	2,077
	7	福岡市民病院 (H23. 4. 1)	一般200 感染症4	89.4	155.7	4,992	5,581	8,690	1,582	開放病床(10床)、手術室、内視鏡検査(上部)、64列CT撮影、3.0テスラMRI撮影、マンモグラフィ撮影、一般撮影、腹部超音波検査、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査、腹部血管造影検査、集中治療室	10	273	2,820	120	3,645	982	看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、PT、OT、ST、臨床工学技士、管理栄養士、MSW、事務職員、消防職員(救急救命士、救急隊員)	福岡東部オープンカンファレンス 福岡脳卒中救急カンファレンス 救急症例検討会 等	4	18,156
	8	福岡赤十字病院 (H23. 4. 1)	一般509 感染症2	81.4	103.1	16,282	19,982	20,612	702	手術関連機器、放射線関連機器(X線撮影装置、CT、MR、骨シンチ)、内視鏡検査室(胃カメラ、大腸ファイバー)、生理機能検査室(エコー、心電図機器等)	5	315	5,666	34	1,924	1,253	看護師、MSW、薬剤師、理学療法士、リハビリセラピスト等	・サザンレブカンファレンス ・認知症地域医療連携セミナー ・南区循環器疾患連携セミナー 他	4	13,002
	9	社会医療法人財団白十字会白十字病院 (H24. 7. 27)	一般411 療養55	102.4	112	6,087	5,943	6,660	7,483	高度医療機器(MRI、CT、RI)、開放型病床、手術室、講義室	30	220	4,175	55	1,194	856	看護師、MSW、薬剤師、管理栄養士、介護福祉士、臨床検査技師、ケアマネジャー、放射線技師、MSW、救急隊等	・2019年度感染防止対策カンファレンス ・西区医師会学術講演会 ・白十字病院登録医会 他	4	2,215
	10	福岡記念病院 (H26. 12. 5)	一般239	77.2	94.6	4,809	6,222	5,891	7,231	病院建物、設備、器械、器具の全てを対象	239	275	5,495	36	2,316	930	看護師、薬剤師、PT、OT、ST、放射線技師、検査技師、MSW、消防職員(救急救命士、救急隊員)等	・症例検討会(CPC) ・感染症セミナー ・福岡西部地区医療連携フォーラム ・看護、医療安全研修会 他	4	2,150
	11	福岡和白病院 (H26. 12. 5)	一般369	62.6	94.2	8,327	13,290	12,527	4,440	開放型病床、画像診断機器(CT・MRI・RI)、ガンマナイフ、リニアック、手術室、生理検査(MCV・SCV)、会議室、講堂	36	112	5,345	44	2,936	883	看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護職等	・臨床症例検討会 ・地域医療研修会 ・九州山口救急救命看護セミナー 他	4	18,780
粕屋 (1病院)	12	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター (H19. 4. 19)	一般499 結核38 感染症12	93.6	94.6	8,677	9,266	8,766	800	診察室、CT、MRI、リニアック、RI、血管連続撮影装置、会議室、研修センター、共同利用病床	5	62	3,424	32	1,785	955	看護師、作業療法士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、栄養士、言語聴覚士等	・整形外科福岡東部シームレス研究会 ・福岡東部卒中地域連携のタベ ・救急症プライマリケアカンファレンス 他	3	1,156

業務に関する報告事項				①紹介率及び逆紹介率 ◎紹介率及び逆紹介率に係る要件 以下のいずれかを満たす必要あり ア) 紹介率80%以上 イ) 紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上 ウ) 紹介率50%以上かつ逆紹介率70%以上					②共同利用の実績 次に掲げるところにより共同利用を実施すること。 ア) 円滑な実施のための体制確保 イ) 共同利用に係る医療従事者と協議の上、設備、器械等を定めること。 ウ) 共同利用に関する情報を、当該地域の医療従事者に提供すること。 エ) 共同利用のための専用病床を確保すること。					③救急医療の提供の実績 以下のいずれかを満たす必要あり ア) 救急搬送患者数÷救急医療圏人口×1,000≥2 イ) 当該医療機関における年間の救急搬送患者の受入数≥1,000		④地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施の状況 ア) 必要な図書等を整備し、研修を定期的に行う体制が整備されていること。 イ) 研修プログラムを作成していること。 ウ) 教育責任者及び研修委員会が設置されていること。 エ) 研修のための施設及び設備を有していること。 オ) 年間12回以上の研修を主催していること。				⑤地域医療支援病院が設置する委員会の開催の実績	⑥患者相談の実績
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	紹介率 (%)	逆紹介率 (%)	紹介患者の 数(人)	初診患者の 数(人)	逆紹介患者数 (人)	共同利用 を行った 医療機関 延べ数 (件)	共同利用の内容	常時共同 利用可能 な病床数 (床)	登録医療 機関の 数	救急搬送受入患者数 (人)	医師、その他の医療従事者 (看護師・薬剤師・技師等)を 対象にしたもの			医師以外の参加職種	研修会の内容	委員会の開催 実績(回) (原則、四 半期に1回 程度)	相談数 (件)	
														回数 (回)	参加者 (人)	うち院外 (人)					
宗像 (1病院)	13	宗像医師会病院 (H12.3.31)	一般164	89.2	104.1	4,935	5,528	5,760	3,126	MRI室、CT室、アンギオ室、透析室、内視鏡室、手術室、救急処置室、地域医療連携室	149	103	ア)2.2 イ)388	48	1,535	1,308	看護師、薬剤師、放射線技師、栄養士等	・宗像臨床アワード ・宗像内科医会 ・消化器後カンファレンス 他	4	1,928	
筑紫 (3病院)	14	福岡大学筑紫病院 (H19.4.19)	一般308 感染症2	85.9	89.1	9,458	11,010	9,814	3,556	開放病床、CT、MRI、エックス線、超音波、内視鏡、脳波、手術室、図書室、病理	10	83	3,454	104	7,141	6,053	看護師、理学療法士、放射線技師、栄養士、薬剤師、事務、運動療法士、検査技師、歯科衛生士、救急隊、その他	・早期胃癌研究会 ・筑紫薬剤師勉強会例会 ・筑紫地区医師連携セミナー 他	4	5,781	
	15	医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 (H20.4.1)	一般600 感染症2	66.4	72.7	10,376	15,615	11,358	2,532	CT室、MRI室、RI室、内視鏡室、手術室、図書室	5	215	9,929	31	1,344	668	看護師、検査技師、薬剤師、介護士、MSW、リハビリ等	・春日ケアカンファレンス ・感染対策筑紫地域ネットワーク ・心療内科フォーラム 他	4	20,054	
	16	福岡県済生会二日市病院 (H24.7.27)	一般260	75.2	106.4	6,836	9,086	9,670	1,829	CT、MRI、RI、超音波検査装置、図書室、会議室、地域医療連携室、診療録管理室、医薬品情報管理室、共同利用病床	10	123	3,425	13	297	175	薬剤師、看護師、検査技師、放射線技師、理学療法士、介護士、言語聴覚士、作業療法士、栄養管理士等	・CNセミナー ・ICLS ・ゆまちネットフォーラム 他	4	12,540	
朝倉 (1病院)	17	朝倉医師会病院 (H12.3.31)	一般300	89.0	72.7	4,621	5,192	3,775	3,431	病床、集中治療室、手術室、内視鏡室、エコー室、X線装置、MRI、検体検査室、生体検査室、間接熱量測定装置、体成分分析装置	289	64	1,355	20	697	439	看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、管理栄養士等	・定例カンファレンス ・学術講演会 ・朝倉医師会医学会 他	4	12,071	
久留米 (4病院)	18	聖マリア病院 (H20.4.1)	一般931 療養100 精神60 感染症6	102.3	162.2	18,078	17,667	28,665	1,359	開放病床、MRI室、CT室、アンギオ室、内視鏡室、手術室、救急処置室、連携推進室、図書室	5	519	10,609	70	4,863	993	保健師、助産師、看護師、准看護師、救急救命士、介護福祉士、看護補助者、医療保育士、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士、歯科衛生士、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、調理師、診療情報管理士、MSW、PSW等	・地域医療支援講演会 ・救命救急センター症例検討会 ・診療栄養勉強会 他	4	7,178	
	19	社会医療法人天神会 新古賀病院 (H22.4.1)	一般234 感染症8	61.1	91.3	7,258	11,861	10,840	1,737	病床、CT室、MRI室、RI室、救急処置室、地域医療連携室等	5	177	3,833	20	1,136	894	看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、介護支援専門員等	・筑後病院感染対策研究会 ・筑後感染対策カンファレンス ・症例検討会 他	4	1,754	
	20	嶋田病院 (H23.4.28)	一般150	81.3	93.5	5,272	6,477	6,061	2,449	病床、MRI、CT、内視鏡室、手術室、救急処置室、会議室、地域連携室等	5	73	2,229	36	1,225	811	看護師、薬剤師、言語聴覚士、事務等	・築後連携協議会 ・感染対策カンファレンス ・症例発表会 他	4	2,741	
	21	田主丸中央病院 (H24.7.27)	一般178 療養72 精神93	63.3	82	3,149	4,972	4,079	3,232	病床、CT、MRI、RI、血管造影装置、ホルター心電図解析機器、救急処置室、図書室	343	76	1,610	16	683	359	看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、理学療法士、臨床工学技士、救急救命士、介護福祉士等	・地域医療連携学術講演会 ・浮羽医療連携症例検討会 ・久留米広域消防本部 甘木朝倉消防本部との合同救急搬送患者2次検証会 他	4	6,590	
	22	公立八女総合病院 (H26.12.5)	一般300	64.0	103.7	4,862	7,587	7,869	1,300	医局、カンファレンス室、会議室、図書室、内視鏡検査・生理機能検査・放射線施設における各医療機器、超音波装置	30	73	2,126	64	1,990	359	看護師、臨床検査技師、薬剤師、診療放射線技師、消防士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ケアマネジャー等	・八女緩和ケア教育セミナー ・プライマリケア・CPC ・NST臨床実地修練 他	4	10,665	
筑後 (2病院)	23	筑後市立病院 (H30.4.1)	一般231 感染2	53.1	81.9	3,555	6,693	5,485	1,283	開放型病床、CT、MRI、カンファレンス室、多目的ホール、会議室、図書室	10	51	1,273	26	956	341	看護師、社会福祉士、臨床検査技師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士等	・筑後症例検討会 ・地域連携認知症勉強会 ・褥瘡対策勉強会 他	4	1,964	
有明 (1病院)	24	大牟田市立病院 (H24.7.27)	一般350	86.2	97.3	7,872	9,122	8,876	1,024	開放病床、CT、MRI、核医学検査装置、医局、会議室、図書室	28	62	1,908	34	1,141	541	看護師、臨床検査技師、薬剤師、放射線技師、リハビリ(P.T・O.P・S.T)、MSW、救急救命士等	・臨床病理カンファレンス ・臨床がんカンファレンス ・救急症例検討会 他	4	3,288	

業務に関する報告事項				①紹介率及び逆紹介率					②共同利用の実績					③救急医療の提供の実績		④地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施の状況					⑤地域医療支援病院が設置する委員会の開催の実績	⑥患者相談の実績
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	紹介率及び逆紹介率		紹介患者の数 (人)	初診患者の数 (人)	逆紹介患者の数 (人)	共同利用を行った医療機関 延べ数 (件)	共同利用の内容	常時共同利用可能な 病床数 (床)	登録医療機関 の数	救急搬送受入患者数 (人)	医師、その他の医療従事者 (看護師・薬剤師・技師等)を 対象にしたもの			医師以外の参加職種	研修会の内容	委員会の開催実績(回) (原則、四 半期に1回 程度)	相談数 (件)		
				紹介率 (%)	逆紹介率 (%)									回数 (回)	参加者 (人)	うち院外 (人)						
飯塚 (1病院)	25	飯塚病院 (H17.4.1)	一般978 精神70	73.2	94.6	15,299	20,898	19,773	8,311	手術室、CT、MRI、腹部超音波、RI(骨、Ca、肝その他)、骨密度測定、FCR撮影	30	106	6,608	79	3,850	1,759	看護師、薬剤師、検査技師、工学技師、放射線技師、リハビリ、栄養士、SW等	・筑豊地区脳神経画像研究会 ・筑豊救命救急研究会 ・地域連携バス研究会 他	4	7,712		
田川 (1病院)	26	社会保険田川病院 (H26.12.5)	一般300 療養35	60.9	80.9	7,699	12,642	10,237	2,156	臨床検査室、病理検査室、病理解剖室、生理機能検査室、内視鏡検査室、手術室、放射線検査室(X線一般撮影、CT、MRI、乳房撮影、透視、血管造影、骨密度測定)、救急外来	5	84	3,257	47	975	410	看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、PT、OT、MSW、PSW 事務職員、メディカルスタッフ	・田川消化器病勉強会 ・TVシンポジウム ・地域連携バス合同会議 他	4	2,134		
北九州 (11病院)	27	小倉記念病院 (17.4.1)	一般656	88.8	255	10,164	11,437	29,170	1,049	MRI室、CT室、アンギオ室、透視室、内視鏡室、手術室、救急処置室、地域医療連携室等	5	347	5,071	29	1,242	966	看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、検査技師、OT、PT、栄養士、事務員、救急隊	・抗血小板薬併用の抗凝固薬の重症性 ・急性期病院から地域へ繋ぐ高齢者の退院支援の課題 ・救急・集中ケア看護セミナー 他	4	19,547		
	28	製鉄記念八幡病院 (H17.4.1)	一般453	98.5	134	8,859	8,988	12,051	6,553	手術室、開放病床(10床)、地域医療連携システム(SMILE)、CT、MRI、リニアック、ガンマナイフ、X線造影検査装置、骨密度測定装置、心電図検査装置、心エコー装置、呼吸機能検査装置、内視鏡検査装置、超音波検査装置、会議室、図書室	10	229	3,269	51	2,827	2,542	薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、リハビリテーション技師、臨床工学士	・病理・細胞診勉強会 ・北九州CDEの会 ・生化学分析師門勉強会 他	4	28,533		
	29	戸畑立病院 (H17.4.1)	一般237	85.9	116.4	7,600	8,843	10,294	5,248	臨床検査室、病理検査室、生理機能検査室、内視鏡検査室、手術室、放射線検査室(X線、CT、MRI、乳房撮影、透視、血管造影、骨密度測定、リニアック、サイバーナイフ)、結石破碎室、核医学装置、PET-CT、救急センター、歯科X線装置、リハビリテーション室、ICU等	5	153	2,410	12	389	188	看護師、放射線技師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、介護福祉士、歯科衛生士 事務	・戸畑セミナー整形カンファレンス ・IBD教室 ・看護セミナー 他	4	9,449		
	30	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院 (H19.4.19)	一般575	91.0	161.2	12,018	13,197	21,282	417	高額医療機器(MR、CT、RI、マンモグラフィ)、開放型病床、図書室	5	205	6,239	43	1,602	1,107	看護師、理学療法士、作業療法士、在宅医療支援関係者、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士 等	・北筑ハートカンファレンス ・整形外科ネットワークフォーラム ・北九州神経カンファレンス 他	4	8,401		
	31	独立行政法人国立病院機構小倉医療センター (H20.4.1)	一般350 精神50	98.3	113.5	6,525	6,637	7,534	537	CT、MRI、RI、リニアック、放射線エコー、開放型病床	20	385	1,320	72	1,527	350	看護師、全職員 等	・感染防止対策カンファレンス ・小倉小児科医会臨床懇話会 ・NST学習会 他	4	2,294		
	32	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院 (H21.4.1)	一般450	87.9	133.8	9,625	10,939	14,646	2,333	病床(10床)、手術室、カンファレンス室、会議室、CT、RI、MRI、放射線治療装置	10	170	3,661	35	2,685	640	看護師、その他	・医療安全講演会 ・九州地域医療連携勉強会 ・救急座談会 他	4	7,979		
	33	健和会大手町病院 (H21.4.1)	一般499	93.6	120	4,275	4,567	5,482	649	開放型病床、MRI、内視鏡、脳波、超音波検査、ホルダー心電図、内視鏡室、図書室、手術室、カンファレンスルーム	5	215	7,322	22	1,319	294	看護師、コメディカル、その他	・心エコー勉強会 ・CPCRセミナー ・感染症対策講演会 他	4	11,272		
	34	北九州市立医療センター (H23.4.1)	一般620 感染症16	85.1	81.2	10,613	12,460	10,125	1,309	CT、MRI、RI、マンモグラフィ、エコー、その他当院の院長が認めた機器等、開放病床、会議室、図書室、医療情報管理室、医薬品情報管理室、臨床検査に関する施設 等	7	564	1,533	31	1,235	603	看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士、介護支援専門員、MSW、事務	・医療連携の会 ・乳腺テクニカルカンファレンス ・緩和ケア検討会 他	4	1,485		
	35	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター (H24.7.27)	一般250	70.9	79.4	2,069	2,915	2,317	345	放射線機器一式(MRI、CT、X線骨密度測定装置、X線乳房撮影装置、血管造影システム等)、生理検査内装一式(負荷心電図装置、心電図モニターシステム、長時間心電図再生装置等)、内視鏡検査機器一式(汎用超音波診断装置、上下消化管汎用ビデオスコープ等)、共同診療時使用設備(登録医控室、ロッカー、白衣、名札等)、共同利用優先病床(5床)、その他(手術室等)	5	121	1,052	115	1,763	228	医療従事者	・内科・脳神経外科・放射線科合同カンファレンス ・感染症対策研究会 ・医療安全研究会 他	4	6,843		
	36	遠賀中間医師会おんが病院 (H24.7.27)	一般100	80.4	62.3	2,860	3,554	2,216	1,076	病院施設、設備の全て	10	56	1,123	32	930	586	看護師、薬剤師、管理栄養士、放射線技師、消防職員 等	・遠賀中間消化器カンファレンス ・遠賀中間画像カンファレンス ・遠賀中間地区救急業務症例検討会 他	4	3,975		
37	北九州市立八幡病院 (H30.4.1)	一般350	63.6	82.3	6,561	10,315	8,494	862	医療機器(CT・MRI・RI・エコー)、開放病床、手術室、内視鏡室、医薬品情報管理室、図書室、会議室	8	221	4,061	17	664	440	看護師、救急救命士、消防隊員、検査技師、放射線技師、介護福祉士、OT、PT 等	・プレホスピタル・インホスピタルセミナー ・小児紹介患者・搬送症例検討月例会 ・インフルエンザ・ノロウイルス対策等	4	1,013			
京葉 (1病院)	38	新行橋病院 (H22.4.1)	一般246	57.6	87.1	4,883	8,473	7,381	36	MRI室、CT室、アンギオ室、透視室、内視鏡室、手術室、救急処置室、入院施設、医療連携室、会議室、図書室 等	5	74	4,028	19	902	830	看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士、放射線技師 等	・感染管理研究会 ・症例検討会 ・救急疾患勉強会 他	3	11,133		



取 組 み 事 項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	退院調整部門	③地域連携を促進するための取り組み	④その他			
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT (情報通信技術) を用いた病診連携等	退院調整部門の概要	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
	11	福岡和白病院 (H26.12.5)	一般369	2004年より5年ごとに(公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価を受ける。最新は2019年3月に(一般病院)3rdG:Ver.2.0を受審し認定を受けている。 また、福岡市東区医師会東区病院部会の相互機能評価を受けている。	予防医学や健康増進の情報発信として、院内・外(地域の公民館等)に地域住民を対象とした健康教室や健康体検のポスターを掲示するほか、登録医療機関や院外の地域医療従事者に向けて診療予定や研修開催に関する情報を月に1度発送、合同カンファレンスや地域医療研修会などの勉強会を積極的に開催している。 また本病院ホームページにおいても健康教室、健康体検や特別講演、地域医療研修会などの予定を掲載し、個別訪問するなどして案内している。 また、新たな設備や治療法導入の際は、関係する医師及び技師による医療機関への訪問活動を行っている。	とびうめネット(情報通信技術)を用いた病診連携等	退院調整専従で看護師1名配置、退院調整看護師5名、MSW7名を専任で配置している。MSWのうち6名は社会福祉士、1名は認定がん専門相談員である。病棟看護師が行った入院3日以内のスクリーニングを元に、退院困難が予想される方のチェックを行っている。 入院7日以内に患者・家族と面談し、退院後の生活で不安な事等を伺い入院支援計画を作成し、説明を行っている。 入院後3日以内で多職種(医師、看護師、リハビリ、MSW等)カンファレンスを開催し、スクリーニング結果や患者・家族から得た情報の共有、課題の把握、方向性の確認等を行っている。 医療依存度の高い患者が在宅退院される際に、患者・家族への指導や、在宅の医療スタッフとの連携を行っている。 基本的に、退院調整看護師とMSWとは情報共有を毎日行っており、困難事例の対応や、院外の関係者(かかりつけ医、ケアマネジャー、高齢者や障害者のサービス事業所、行政関係者)等と併せてカンファレンス調整や参加は協働して行っている。 地域の様々な団体が開催する勉強会や、症例検討会に参加し、退院調整の質向上を目指している。	福岡市医師会方式脳血管障害地域連携バス 福岡市医師会方式大脳脊髄部骨折地域連携バス	年に3回(3月、7月、11月)開催される地域連携ワークショップの参加 医師による地域連携バス対象者の選定と、バスの説明 医療連携室によるデータ管理	563名 福岡看護専門学校、純真高等学校
粕屋 (1病院)	12	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター (H19.4.19)	一般499 結核38 感染症12	令和4年度を目処に受検予定 病院機能に関する第三者評価を受けることは、良質な医療を実現してゆく上で有意義なことであり、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、訪問看護の拡充を期し、令和3年11月に受審を延期とした。	冊子などの配布(粕屋医療圏での情報発信) 病院広報誌「ちどり」を定期発行し、近隣の医療機関等に配布することで病院情報を発信している。 講演(粕屋医療圏における診療に関する情報発信)等を地域住民、行政機関、医療機関等に紹介している。 講演場所:院内研修センター、古賀市の健康福祉まつり、古賀市立図書館等。 当院のホームページにおいて病院機能、診療内容、研修の開催状況についての情報発信を積極的に行っている。 当院とかがりつけ医との情報共有するため、とびうめネット(高齢者救急医療システム)に参加していることを、当院のホームページで情報発信している。	とびうめネット加入	退院調整は、地域医療連携室と各病棟の退院調整リンクナースが協力して、問題点を迅速に対応して役割分担し、患者・家族の意向に添ったよう複数回の面談や連携を行っている。 また、地域の医療・福祉・介護の方々とも密接な協議を重ね、自宅退院・転院へのシームレスな医療の提供を図っている。	がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計画(がん診療連携拠点病院)による連携 がん診療連携拠点病院で策定した診療計画(5大がん連携バス)、「私のカルテ」を用いて連携病院と退院後の診療連携を図る。 肺結核地域連携バスによる連携 発生地域を管轄する各保健所と連携した退院後の円滑化を図るため診療計画(バス)を用いて行政(保健所)と退院後の診療経過を観察する。	当院で行われる研修会、講習会等においてクリティカルパスの紹介を行うとともに、連携参加を呼びかけている。 また、新たに地域連携クリティカルパスが必要な患者で、そのかかりつけ医が使用していない場合は、概要説明をおこないバスの参加を促している。	535名 日本赤十字九州国際看護大学、福岡女子学院看護大学、福岡保健学院、福岡水産看護専門学校、福岡看護専門学校、福岡看護高等専門学校
	13	宗像医師会病院 (H12.3.31)	一般164	(公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rdG:Ver.2.0取得(平成30年8月18日)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知するほか、看護学校実習生の受け入れ状況掲載している。 また、会員向けに「ご利用ハンドブック」を毎年発行している。	「とびうめネット」や宗像医師会独自の事業である「むいみんネット」を活用し、診療所と必要情報を共有することで、地域における継続性の高い医療の提供に努めている。	退院後も様々なニーズや課題をもつ患者・家族に対して安定した療養生活を送ってもらうように、地域医療連携課に退院調整部門を設けており、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、必要に応じて、往診や訪問看護等の在宅サービスを調整している。	がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計画(がん診療連携拠点病院)による連携 がん診療連携拠点病院で策定した診療計画(5大がん連携バス)、「私のカルテ」を用いて連携病院と退院後の診療連携を図る。 肺結核地域連携バスによる連携 発生地域を管轄する各保健所と連携した退院後の円滑化を図るため診療計画(バス)を用いて行政(保健所)と退院後の診療経過を観察する。	宗像医師会を通じて普及させている。	350名 宗像看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、福岡看護高等専門学校
	14	福岡大学筑紫病院 (H19.4.19)	一般308 感染症2	日本医療機能評価機構の機能評価を令和2年11月に受検予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、訪問看護の拡充を期し、令和3年11月に受審を延期とした。	[方法]本病院のホームページ、広報誌(ちくしゅん)、病院パンフレット、年報等 [内容]共同利用に関すること、看護実習受け入れ、地域連携クリティカルパスに関すること	とびうめネット加入	患者さん、ご家族が安心して退院後の生活を送ることができるよう、入院時より退院調整看護師、医療ソーシャルワーカーが主治医や病棟看護師と協働して退院支援・退院調整を行っている。 ・入院患者の支援、退院・転院時の相談・支援、退院後の在宅療養移行支援、生活・療養に関する相談支援、がん相談支援、かかりつけ医・訪問看護ステーションとの連携、施設入所支援・連携など ・退院前や退院後の看護師・理学療法士等が自宅や住まいの場に出向き、訪問看護師等と連携を図り、在宅療養をサポートしている。・就労支援	筑紫医師会と3施設の基幹病院で「脳血管障害及び大脳脊髄部骨折地域連携バス(合同運用会議)」を3回、連携医療機関との勉強会や意見交換会を開催し連携を図っている。	近隣の医療機関へ向かい、連携医療機関の登録を推進している。 関係医療機関と連携を図り周知している。 がん地域連携クリティカルパスの説明会を地域の医療機関向けに開催している。	323名 福岡大学医学部看護学科、国際医療福祉大学、福岡女子学院看護大学、国際医療福祉学院、筑紫看護高等専門学校、あさくら看護学校、福岡看護専門学校、福岡看護大学
	15	医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 (H20.4.1)	一般600 感染症2	JCI取得(平成30年12月) (公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rdG:Ver.2.0更新(平成30年6月)	本病院のホームページをはじめ、近隣医療施設(650施設)に毎月研修会等の情報発信。 看護学校実習生の積極的な受け入れ、地域連携クリティカルパスの導入を実施。	とびうめネットに加入し、救急受け入れをはじめ登録医療施設としても取り組んでいる。	福岡市医師会、筑紫医師会が主導している「脳卒中、大脳脊髄部骨折地域連携バス」を策定し近隣医療機関と連携を密に図っている。	定期的な会合に参加し地域連携バスの検証、協議を行っている。	740名 純真学園大学、高尾看護専門学校、九州看護福祉大学、福岡看護専門学校、アカデミー看護専門学校、筑紫看護専門学校、福岡保健学院、福岡看護専門学校、福岡看護高等専門学校	
	16	福岡県済生会二日市病院 (H24.7.27)	一般260	(公財)日本医療機能評価機構認定基準3rdG:Ver.1.1更新受審(平成28年6月23日)	毎月、開業医登録への診療情報を発信している。 ホームページ内に院外の関係者に向けての研修の開催に関する情報を発信している。	平成27年度とびうめネット加入	地域医療連携室に退院調整部門を設置、ソーシャルワーカーと看護師が必要に応じて往診や訪問看護等の在宅サービスを調整している。	大脳脊髄部骨折地域連携バス、脳卒中地域連携バス	3か月に1度、協力病院との勉強会を行っている。	314名 高尾看護専門学校、筑紫看護高等専門学校、麻生看護専門学校
	17	朝倉医師会病院 (H12.3.31)	一般300	(公財)日本医療機能評価機構認定機能別別版評価項目3rdG:Ver.1.1更新(平成27年10月2日)	ホームページ上に、院外に向けて各種教室(勉強会)、研修会、特定健診、人間ドックの案内や、「地域講演会」などへの講師派遣案内を掲載している。	医師会会員は、電子カルテシステムを利用した地域医療連携システムにより、カルテ閲覧が可能となり、紹介した患者の治療状況が把握できる。 また、連携会議等で「とびうめネット」の案内及び活用、登録方法の周知を図っている。(平成28年度加入)	退院後も安心して地域での療養生活が進めるよう、入院時より看護師にて退院支援に取り組んでいる。 また、地域連携室においても、後方支援(退院調整)部門として、様々なニーズや、課題をもつ患者・家族に対し、転院又は施設、在宅サービスに向けた調整を行っている。	がんの地域医療連携クリティカルパス(私のカルテ)を運用している。	ホームページ上でのPR、会員Drへの研究会等を行っている。	184名 あさくら看護学校、昭和学園、緑生館、福岡看護専門学校
	18	聖マリア病院 (H20.4.1)	一般931 療養100 精神60 感染症6	(公財)日本医療機能評価機構(Ver.0.0:区分4)2018年6月1日 ISO9001(2018年2月5日) ISO15189(2019年12月2日)	聖マリア病院地域医療連携広報誌「耳納の朝」の発行(毎月)・郵送。 聖マリア病院ホームページでわかりやすい案内等随時随時更新。 高度医療機器、手術室等について利用案内をホームページに掲載し、連携登録医の医師をはじめ地域の医師を訪問し共同利用の促進をはかる。 院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知。	ID-LINK カルテ情報を他の病院やクリニック(かかりつけ医など)へネットワーク経由で聖マリア病院の医療情報を開示している。 ネットワークの参加を地域の医療機関に呼びかけ、久留米地区の主要医療機関の賛同を得る事ができ、平成24年8月に「くまの診療情報ネットワーク協議会(アザレネット)」が発足し、地域レベルでの広域電子カルテ(生涯カルテ)の実現を図っている。このネットワークを利用した情報連携によって、より正確で迅速な診断と安全な治療が期待される。 また、福岡県が進めている「とびうめネット」にも参画し、消防・救急隊と搬送先医療機関が連携できるよう緊急時紹介先医療機関体制整備を進めている。	転院支援、在宅復帰状況の管理、自宅退院患者を中心とした退院支援(社会復帰)、退院援助および医療機関・施設等との転院調整など、さまざまな要望や課題を持つ患者・家族に対して、退院後も安定した療養生活を送ってもらうように、患者支援部を設け、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、医療連携における後方支援の強化を推進している。現在は、前方支援を主に担当する地域連携推進部(医療相談および主に後方支援を担当)に分かれているが、お互いに協力し、円滑な業務遂行につなげている。	がん地域連携バス 福岡県では東の拠点病院として、九州がんセンター・九州大学の2病院が指定されている。地域拠点病院は13施設が指定されているが、当地域では、久留米大学病院、聖マリア病院で、高い水準のがん医療の提供を確保し、全国どこでも適切ながん医療を受けられるように「がん相談支援センター」の設置など体制整備を図っている。 久留米大脳脊髄部骨折地域医療連携バス 久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病棟・維持期病棟の医療を推進している。医療制度改定で、定例会等一同に会った実施が不要になったが、各医療機関が相互に訪問し、顔の見える連携の継続を図っており、良い効果も上げている。また、同会の世話人は、年に1回程度、一同に会った学術講演会等の開催を計画している。 筑後地区脳卒中連携の会 地域医療連携バス 久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病棟・維持期病棟と連携強化し、脳卒中連携バスの事務局として地域完結型の医療を実現している。医療制度改定で、定例会等一同に会った実施が不要になったが、各医療機関が相互に訪問し、顔の見える連携の継続を図っており、良い効果も上げている。また、同会の世話人は、年に1回程度、一同に会った学術講演会等の開催を計画している。	がん地域連携バスについては、聖マリア病院ホームページで情報公開し、関係医療機関へ周知している。	1,363名 聖マリア学院大学、久留米医師会看護専門学校、緑生館、佐賀女子高校、博多高校、八女看護専門学校、折尾看護専門学校、筑紫看護専門学校、福岡保健学院、福岡看護高等専門学校、あさくら看護学校、福岡看護専門学校、福岡看護高等専門学校
久留米 (4病院)	19	社会医療法人天神会 新古賀病院 (H22.4.1)	一般234 感染症8	(公財)日本医療機能評価機構(Ver.0.0:区分4)2019年10月1日 ISO9001(2018年2月5日) ISO15189(2019年12月2日)	ホームページ及び広報誌にて、診療内容及び診療実績に関する情報を発信している。 専従の前方連携担当者を配置して更なる情報発信を行う。	くまの診療情報ネットワーク協議会(アザレネット)に参加し、ID-LINKを用いて診療情報の共有を病院・診療所で行っている。 また、緊急時のかかりつけ医との情報共有ツールとしてとびうめネットを活用している。	入院時より病棟退院調整看護師が関わり早期退院に向けての患者の情報確認を行う。また、地域医療連携室に所属する看護師、MSWが医師及びICM/メディカルスタッフと連携し、状況に応じた退院支援を実施している。	筑後地区脳卒中連携の会に計画管理病院として参加。	筑後地区脳卒中連携の会では、連携バス運用に関する部会を行っており、看護師、リハビリ、栄養士、ソーシャルワーカーがそれぞれの部会に参加している。	2,786名 古賀国際看護学院、杉森高校、純真高校
	20	嶋田病院 (H23.4.28)	一般150	(公財)日本医療機能評価機構(新規格認定2005年Ver.4第1回更新認定2010年Ver.6、第2回更新認定2015年3rdG Ver1.0(一般病院2)、新規付加機能(緩和ケア)2015年、リハビリテーション機能、副機能2017年、第3回更新認定2019年3rdG Ver2.0(一般病院2)、リハビリテーション機能、副機能2019年、緩和ケア機能、副機能2019年)	患者向けの広報誌、開業医向けの広報誌、ホームページ、SNS、院内・院外健康教室の開催及びチラシ配布等による情報発信に努めている。	①IDリンクシステム(アザレネット):久留米医療圏ネットワークシステム、2011年開始、登録医療機関数35施設、登録患者3348名 ②とびうめネット:2017年加入、登録医療機関数765施設、当院は緊急紹介先医療機関として登録、登録患者数2992名	地域医療連携室の後方支援として退院調整支援をMSW5名、病棟看護師2名で担当 病棟看護師、リハビリセラピスト、在宅部門などと連携を取りながら実施	大脳脊髄部骨折・脳卒中回復期バス、循環型糖尿病地域連携バス(当院と開業医による循環型バス)	連携講演会、業連連携会議、医師科連携会議、コーディネーターの運用等 地域連携講演会、小郡三井地区医療介護連携会議	93名 精華女子高等学校、アカデミー看護専門学校、高尾看護専門学校、久留米医師会看護専門学校



取組事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信		退院調整部門	③地域連携を促進するための取り組み		④その他		
医療圏	No.	地域医療支援病院名(承認年月日)	病床数(床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT(情報通信技術)を用いた病診連携等	退院調整部門の概要	地域医師会とともに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み		
北九州(11病院)	28	製鉄記念八幡病院(H17.4.1)	一般453	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG:Ver.1.1取得(平成30年3月) 緩和ケア病院2 3rdG:Ver.1.1取得(平成30年3月)	ホームページ、フェイスブック 広報誌「こんにはせいでつ病院です」14回/年発行(4,000部/回) 連携室より「登録医向け 毎月発行 4ページつ病院健康講座 市民向け 2回/年 5地域医療従事者研修会 医療従事者対象 毎月開催 6出前講座 地域の方々や企業向け 41回開催	地域医療連携システム「SMILE」を開発し、登録医療機関と情報を共有することで、効率的で質の高い連携の提供に努めている。 ①「SMILE」の機能を充実させた「SMILE2」を本年度リリースし、運用を開始している。 「とびうめネット」と「とびうめ@きたきゆう」、「福岡県広域災害・救急医療システム」に登録し、医療機関やかかりつけ医、行政機関等との共有を図っている。	患者・家族が安心な生活が送れるように支援するための窓口として、医療相談室を設置している。 国家資格である社会福祉士を有するソーシャルワーカーや退院調整師、看護師、療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助、退院援助、社会復帰援助、受診・受療援助、経済問題への調整介入、医療安全に関する相談援助、苦情相談等多岐に渡る内容に対して専門的な立場で支援している。	北九州地区の病院と連携し、北九州地域連携バス(脳卒中、大腸骨近位部骨折)を運用している。	脳卒中、大腸骨近位部骨折の連携バスの運用については、北九州地域連携協議会に参加し、研修や意見交換により情報共有しながら各医療機関との連携強化を図っている。	82名 八幡医師会看護専門学校、福岡県看護協会	
	29	戸畑立病院(H17.4.1)	一般237	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG Ver.1.1(平成30年1月29日、30日)	広報誌(年4回発行)やインターネットを使用して、新任の医師紹介や最新の医療機器を紹介している。 毎月連携室便りを中旬に発行している。(研修の案内、外来診療案内、医師不在表など)	地域の医療機関と「医療ネット共働き」を使って情報交換を行っている。 福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」の受け入れ病院として、患者を受け入れ在宅医療のサポートを行っている。 地域の医療機関を紹介できるよう、リーフレットを作成し、患者が手に取れるように地域連携室前に設置している。 また、北九州市の地図に連携病院を入れてわかりやすく患者に提供している。	地域連携室に退院調整看護師を3名配置し、前方(入院調整)の看護師より入院時の患者の情報をMSWと共有し早期介入を行っている。 また、医師、病棟毎のMSWと病棟調整看護師、理学療法士等と共に職種が関わり、1週間に1~2回カンファレンスや面談を行い、退院の方向性を決定し患者が安心して療養して頂けるように援助を行っている。 退院前訪問、退院後訪問を行い在宅で安心して生活できるよう支援している。 地域の居宅事業所や訪問看護ステーションと研修会等で交流を深め、情報共有を行っている。 がんの患者の入院調整は主にがん相談員が介入し、入院から転院調整までを行い不安の軽減に努め、スムーズな退院調整を行っている。	北九州地域連携バス(脳卒中、頸部骨折)を使用し、計画病院として維持期、回復期病院と連携をとり、患者情報を共有し、医療の質の向上に努めている。 また、年3回連携病院を訪問し情報共有を行っている。 がんの地域連携バス(胃・大腸・肺・乳がん・肝がん・前立腺がん)を使用し患者様が地域で安心して医療を受けることができるように地域の連携病院とがん医療の均てん化に努めている。	脳卒中・頸部骨折のバス運用については、北九州地域連携協議会に出席し情報共有を行い、院内に協議会の内容を発信している。 がんの地域連携バスの新規の連携病院には訪問し、運用の説明を行い患者様が地域で安心して療養できるような情報交換を行っている。 地域連携バスの使用率、バス使用の在院日数を院内での各種会議で報告を行い、院内での普及に努めている。	123名 北九州戸畑看護専門学校、折尾聖真高等学校、大東亜大学、久留米大学	
	30	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院(H19.4.19)	一般575	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG:Ver.2.0取得(令和元年5月10日)	ホームページで地域の医療従事者や在宅医療・在宅介護関係者へ研修開催に関する情報を発信している。研修会ポスターをチラシとして登録医や地域住民、調剤薬局、区役所へ配布し周知している。 ホームページで地域の医療従事者や在宅医療・在宅介護関係者へ研修開催に関する情報を発信している。研修会ポスターをチラシとして登録医や地域住民、調剤薬局、区役所へ配布し周知している。	「連携のかけ橋」という医療機関向け情報誌を1回/隔月発行している。診療のトピックやチーム活動内容、休診情報、研修会のお知らせ等を掲載している。 「診療案内誌」11回/年、「メディカルナウ」という地域への広報誌を4回/年発行している。各診療室や部門紹介、病院行事や健康に役立つ情報、健康教室など研修会の紹介を掲載している。 必要時、連携医療機関や在宅医療、在宅介護サービス関係者へ情報を文書で送っている。	インターネット回線を利用し、連携医療機関へCT、MR検査の検査予約とそれに伴う画像情報と読影診断情報を提供している。 きしのらネットの運用 患者の同意のもと、かかりつけ医がインターネット回線を利用して、当院の電子カルテのデータの一部を閲覧することで、診療情報の提供がタイムリーに行える。	医療支援部にMSW、看護師を配置し、退院調整を担当している。入院患者全員に入院後24時間以内(急患入院:48時間以内)に退院支援のスクリーニングを行い、必要な患者へ7日以内のカンファレンス等、早期介入を行っている。地域との連携強化のため病院訪問の実施、在宅のサービス利用のある患者のケアマネージャーへの連絡や退院前カンファレンス、ケースカンファレンスの実施、在宅関連の研修会へ積極的に参加している。地域包括ケアシステムの構築に関しては、多職種で構成された地域包括ケア推進室をおき、委員会にて検討を重ね、地域における多職種連携会議に出席し、連携等で情報交換を行い体制づくりに取り組んでいる。院内に於いては看護師と協働し各病棟にリンクナースを配置、退院支援に関する課題等を検討している。新採用の研修医、看護師、DSなどに地域包括ケア及び退院支援に関する研修を実施し、啓蒙に努めている。	①大腸骨近位部骨折、②脳卒中、③胃がん、④大腸がん、⑤肺がん、⑥乳がん、⑦肝がん、⑧前立腺がん	地域関係者との定例会議に参加し、関係医療機関との面談を実施している。 肺がん内服薬地域連携クリティカルパスに關して、医療圏のがん診療連携拠点病院と協力し地域の医療機関へ説明会を実施した。 在宅医療・療養を希望される方への緩和ケアにおける地域連携コミュニケーションツールとして、一言日記帳を活用し、本人、訪問看護ステーションや在宅ケアマネージャーと情報共有、意思決定支援の推進に努めている。	718名 西南学院大学、福岡県立大学、原看護専門学校
	31	独立行政法人国立病院機構小倉医療センター(H20.4.1)	一般350 精神50	2020年2月(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG:Ver.2.0取得(平成30年5月10日)	毎月、メール便にて600程度の医療機関等へ、院内広報誌(鷗(かもめ)を四半期に1度発行)や、院外関係者向けの研修案内、春ヶ丘健康宅配の案内等、さまざまな情報を発信している。	画像情報システム(CaRna)を使い、24時間365日画像検査の予約が可能となっている。(平成30年5月よりとびうめネットの運用を開始した。)	地域医療連携室に退院調整部門があり、SW4名、看護師3名が担当を決めて病棟を受け持ち、スムーズな退院ができるように調整を行っている。	新生児在宅医療移行地域連携バスの構築に取り組んでいる。 訪問看護ステーション、地域医療機関と在宅医療の現状や地域医療機関における診療上の課題、病状連携上の課題を検討し、意見交換を行っている。 平成21年より全国で初めて周産期医療特化型医師派遣用ドクターカーを導入。開業医で出生した新生児の急変対応に際し、小児科医を緊急的に派遣している。 また、近隣産婦人科開業医での新生児健診のため、小児科医を派遣し密な連携体制を築いている。 精神科を有する地域周産期母子医療センターとして、精神疾患合併妊産婦の妊娠・分娩管理を実施しており、院内連携のみならず、地域社会(保健師等の自治体担当者)との連携も積極的に実施している。 平成30年度より隔月での合同連携カンファレンスを実施している。	8,752名 西南学院大学、専門学校北九州看護大学、遠賀中央看護助産学校、福岡女子学院看護大学、北九州戸畑看護専門学校、北九州小倉看護専門学校、福岡看護大学、福岡水産看護助産学校、福岡医療・スポーツ専門学校、福岡看護専門学校		
	32	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院(H21.4.1)	一般450	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG:Ver.2.0(平成30年11月1日更新)	診療連携広報誌の発行(年4回、送付先約700医療機関)、患者向け広報誌の発行(年4回)、必要に応じて臨時発行、1,500部/回)、ホームページの随時更新、連携医療機関を対象とした医療連携懇話会の実施(年1回)、京都医師会との合同症例検討会の実施(年1回)、救急隊との座談会(年1回)	とびうめネットへの加入。	退院の阻害因子を抱えた患者は早期に発見・介入出来るよう入院前より支援を行う。 患者、家族の主体的な参加を促し、満足できる退院支援活動を行う。 地域との連携を円滑に行い、スムーズに退院支援を行う。 病棟やスタッフ間で統一した方法で退院支援ができるよう、退院支援活動に係る知識やシステムの啓蒙を行う。	大腸骨近位部骨折地域連携バス、脳卒中地域連携バス	北九州市大腸骨近位部骨折地域連携バス協議会への参加、北九州地域連携バス協議会への参加、福岡県医師会との院内医師に向けた利用促進を依頼	161名 北九州看護大学、小倉看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、西南学院大学、福岡県立大学、京都医師会看護高等専修学校、福岡県立大学看護実践教育センター、聖路学園大学	
	33	健和会大手町病院(H21.4.1)	一般499	(公財)日本医療機能評価機構3rdG 一般病院2:2014年認定 付加機能救急医療機能 Ver.2.0:2015年認定 日本品質保証機構 ISO 14001 2015年認証取得(2018年更新) ISO 9001 2006年認証取得(2018年更新)	ホームページや広報誌(隔月発行)により医療活動の内容を随時情報公開している。その他に、各職種・委員会等の医療活動の取り組み内容をまとめて発表している「医療活動交流委員会」や医療活動をまとめた「医報」を発行している。 当院の登録理事と「登録医・健和会合同運営会議」を1回/3ヶ月(年4回)を基本に開催し、活動内容の報告を含めた情報交換を行っている。	福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」、「とびうめ@きたきゆう」に参加	医療相談・医療福祉連携部に退院支援部門を設置しており、退院支援看護師2名、社会福祉士6名が退院支援にあたっている。 入院翌日に退院支援看護師が前日入院患者の情報確認を行い、支援の必要性を判断し早期に介入するよう努めている。 緊急入院が多く、また複雑な問題(老々介護や同居、身寄りがいない、経済的困難等)を抱えている患者も多く、医療ソーシャルワーカーと連携しながら問題解決に努め、病棟回診・カンファレンス等に参加し院内外多職種と情報交換を行っている。 医療以外の問題を抱える患者の紹介も多くあり、そのような場合は受け入れ時より退院支援看護師や医療ソーシャルワーカーが関わることで、地域医療・介護機関との問題を事前に捉え支援を開始している。 精神疾患を有する患者への医療提供も多く、地域の精神科医療機関や精神保健福祉センター等との連携も強化している。	両便ボタン交換連携バス、脳卒中連携バス、大腸骨近位部骨折連携バス	「地域連携バス協議会」に参加し、情報共有しながら各医療機関との連携強化を行い、院内での普及に努めている。	636名 健和看護学院、北九州小倉看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、福岡県立大学看護実践教育センター	
	34	北九州市立医療センター(H23.4.1)	一般620 感染症16	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG:Ver.1.1の認定(平成30年8月3日)	ホームページ、Eメール、FAX、病院広報誌「輪」(年4回発行)、SNSを活用し、登録医や地域の医療機関に向けて、医療連携や地域の医療従事者を対象にした研修等に関する情報を発信している。 毎年、「診療案内」を作成し、登録医や地域の医療機関等へ送付している。 また、近隣連携医療機関への訪問時にも、当該「診療案内」を配布している。 患者、市民を対象に広報誌「こんにはせいでつ医療センターです」にて情報提供している。 看護・助産学生、薬剤師、臨床検査技師の学生の受け入れを積極的に行っている。	地域医療の質の向上を図るため、地域医療連携ネットワークと連携し北九州を導入し、当院で受診した際の検査結果等を地域の医療機関インターネットで共有している。 今後も、地域医療機関等の意見を伺いながら、随時開覧可能な内容を拡充していく。 【高機能医療機器の予約】 CT検査、MRI検査、PET検査、X線撮影検査、骨密度検査、マンモグラフィ、腹部エコー、体動エコー、頸部血管エコー 【開覧可能な内容】 上記検査と内視鏡の画像・レポート、血液・生化学検査、処方箋(医薬品注射)、病理診断、細胞診断、退院時要約、看護要約 平成31年3月より、福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」に加入したため、今後は、これまで以上に幅広く情報発信を行うことが可能となった。 また、より内容が充実した病診連携の家庭に向けて、「とびうめネット」と連携し北九州を連携させたシステムの構築について検討を行っている。	患者、家族が退院後も住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、医療連携室・患者支援センターを設け、社会福祉士と看護師が協力し関係職種との連携を図り、入院前支援を行い早期に退院支援・退院調整を行っている。	福岡県がん地域連携バス、大腸がん(11件)、乳がん(5件)、肺がん(15件) その他のクリティカルパス:脳卒中(13件)	退院時にバスの利用を積極的に促しているほか、計画的に地域の医療機関を訪問し協力を求めている。	289名 小倉看護専門学校、西南学院大学、北九州小倉看護専門学校、北九州市立看護専門学校、門司区医師会看護高等専修学校、久留米大学、福岡県看護協会	
	35	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター(H24.7.27)	一般250	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG:Ver.2.0取得(平成31年3月1日)	紹介患者に対する医療の提供、MRI、CTの医療機器の共同利用の実施、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修をホームページに掲載し、地域の医療機関向けに「地域医療連携室だより」、情報誌「潮流」等を送付し、医療の質の向上等様々な情報発信を行っている。 内科・脳神経外科・放射線科にて合同カンファレンス、また、救急搬送1,000件以上に向け、救急隊との事例検討会も実施している。	福岡県医師会診療情報ネットワーク(とびうめネット)に参加しており、開業医の主治医が不在の時でも救急隊から搬送された患者さんの情報を得ている。	平成29年5月に入院支援センターを開院。退院前カンファレンス、ケアマネージャーへの情報提供、退院先医療機関の紹介、調整に加え、入院前より患者さんの情報収集を行い、退院支援・退院調整を入院時期より開始している。	脳卒中地域連携バス	「地域連携バス協議会」に参加し、情報共有しながら各医療機関との連携強化を図っている。	774名 門司区医師会看護高等専修学校、戸畑看護専門学校	

取組み事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信		退院調整部門	③地域連携を促進するための取り組み		④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT(情報通信技術)を用いた病診連携等	退院調整部門の概要	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルバスの種類・内容	地域連携クリティカルバスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
	36	遠賀中間医師会おんが病院 (H24.7.27)	一般100	(公財)日本医療機能評価機構による評価を令和4年2月に受審する予定(申し込み済)。※令和3年2月に受審予定であったが、新型コロナウイルスの影響につき日本医療機能評価機構と協議の上、延期となった。	院外の関係者に向けた研修、消化器カンファレンスや糖尿病カンファレンス、画像カンファレンスなどの開催情報や地域患者向けの糖尿病教室などの研修開催情報。開放型病院として登録医などの連携情報(患者紹介や転院、医療情報提供など、病院情報の提供)。他病院・クリニック等向けへの検査依頼・結果確認方法などの情報。在宅支援として24時間対応可能な訪問診療の提供や在宅医療内容、訪問リハビリ、訪問薬剤、訪問栄養内容。病児・病後児の受け入れを積極的に行っている。看護学校実習生の受け入れを積極的に行っている。手術件数、患者数などの統計データやDPCによる診療情報の公開。広報紙「地域と生きる」にて情報提供を行っている。	福岡県医師会診療情報ネットワークの「とびうめネット」へ参加	退院後の患者・家族の課題に対して安定した療養生活を送れるように、地域医療連携室に退院調整部門を設けており、MSWや看護師が協力し、入院時から患者及び生活環境等の情報把握を行い、必要に応じて訪問診療、往診や訪問看護、訪問リハ等の在宅サービスを調整している。また、看護師による退院後の訪問指導を対象患者に行っている。	福岡県医師会のがん地域連携バス;胃癌、大腸癌、肺がん	医師会及び地域クリニックへ訪問がん連携拠点病院への情報提供等	104名 遠賀中間医師会遠賀中央看護助産学校
	37	北九州市立八幡病院 (H30.4.1)	一般350	令和3年4月に日本医療機能評価機構の病院機能評価受審申込み	ホームページ、FAX、診療案内、病院広報紙、医療連携会、医療機関訪問により、登録医や地域医療機関等に診療内容や研修会等に関する情報を発信している。また、市民を対象にした病院広報紙や市民公開講座開催により情報を提供している。	とびうめネットの活用により緊急入院患者のかかりつけ医と診療情報を共有し、効果的な診療提供を図っている。	医療連携室に退院調整部門を設置し、患者・家族が退院後も安心して療養生活が送れるように医療連携室担当看護師及び社会福祉士が入院早期から患者・家族に面談し退院支援・調整を実施している。	脳卒中地域連携バス(北九州標準モデル)9施設38件 大腿骨近位部骨折地域連携バス(北九州標準モデル)9施設37件	関連医療機関に連携クリティカルバスの概要を説明するとともに、周知を図っている。	261名 八幡医師会看護学院、美萩野女子高等学校、西南学院大学
京葉 (1病院)	38	新行機病院 (H22.4.1)	一般246	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目2ndG: Ver.5.0(平成21年11月6日取得)、3rdG: Ver.1.0(平成26年12月5日取得)、3rdG: Ver.2.0(令和2年12月7日取得)	当院のホームページにおいて、院外関係者へ向け研修の開催に関する情報を発信している。広報紙(原則年3回)を地域の医療機関及び施設へ配布している。	とびうめネット加入。	医療連携室においてソーシャルワーカーや看護師が退院先の調整を行ったり、退院後の相談を受けたりしている。	脳卒中地域連携バス	地域の医療機関へ訪問し、連携への協力を促している。	168名 京葉医師会看護高等専修学校、豊前菜上医師会看護高等専修学校、美萩野女子高等学校、福岡水巻看護助産学校、下関看護リハビリテーション学校、福岡看護専門学校